

三遠南信地域の港 三河港の現状 (3)

～ 飯伊地域や長野県の輸出と港 ～

本誌No.496、497で「三遠南信地域の港」とも言える三河港について紹介してきた。今回は、港を利用する地域の側から、長野県や当地域の輸出を見る。

1. 長野県の輸出出荷額と輸出生産事業所数の推移

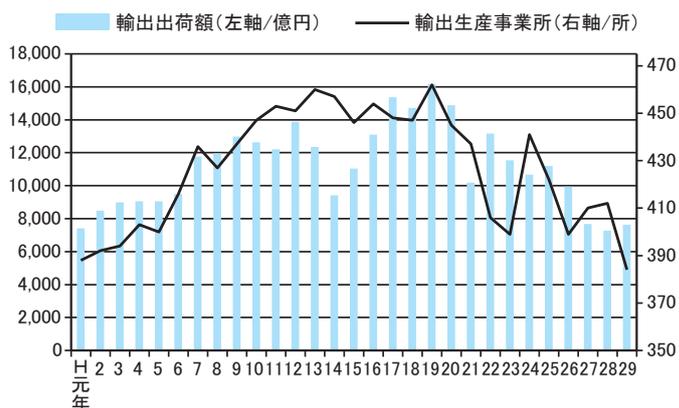
長野県は毎年、「輸出生産実態調査結果報告書」を公表している。

これは、日本標準産業分類による大分類E－製造業を主業とする事業所（国及び公共企業体に属するものを除く）のうち、従業員10人以上を有する3,200事業所で、輸出生産品を製造又は加工している事業所を調査の対象としており、各年末日現在の事業所数や従業員数、直接輸出額、間接輸出額及び輸出生産加工賃や、それらの合計である輸出出荷額などを集計したものである。

最新の結果である平成29年の同調査によると、平成29年の県全体の輸出出荷額は、7,642億6,747万円で、前年に比べ5.1%増加している。とはいうものの、リーマンショック後の平成21年に比べても少なく、ここ3年ほど平成元年度の水準で推移している。

また、輸出生産事業所数は384所で、平成28年の412所から28所減少している。

長野県の輸出出荷額と輸出生産事業所数の推移



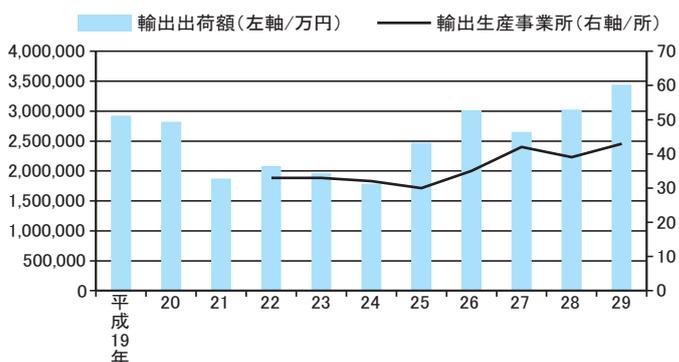
2. 飯伊地区の輸出出荷額と輸出生産事業所数の推移

同調査により、飯伊地区の輸出出荷額と輸出生産事業所数の推移を見ると、平成29年の輸出出荷額は、344億0,876万円で、前年に比べ13.8%増加している。

また、当地域の輸出生産事業所数は43所で、平成28年の39所から4所増加している。

同調査によれば、当地域では、県全体の趨勢と異なり、リーマンショック以後も輸出出荷額、輸出事業者数とも増加傾向にある。

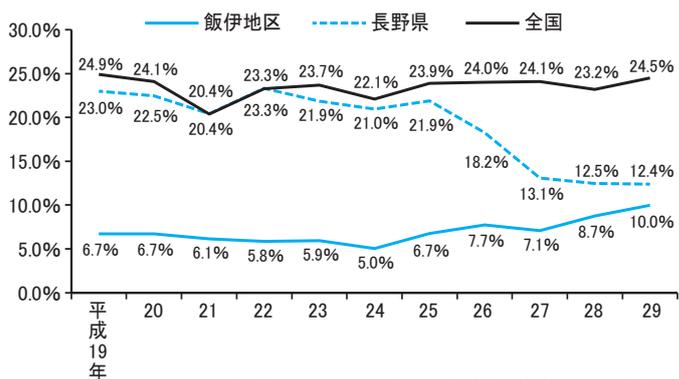
飯伊地区の輸出出荷額と輸出生産事業所数の推移



3. 製造品出荷額等に対する輸出出荷額の割合

右のグラフは、平成19年以降の製造品出荷額等に対する輸出出荷額の割合を、全国、長野県、飯伊地区で見たものだが、当地域では平成25年以降、水準はさほどではないものの上昇基調にあり、当地域の製造業事業者にとって輸出も重要な柱になりつつある様子が窺える。

製造品出荷額に対する輸出出荷額の割合の推移



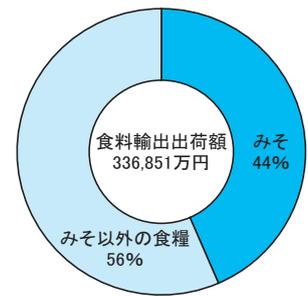
※ 製造品出荷額等は、すべて従業員4人以上の事業所

6. 長野県の「みそ」の輸出

平成29年の同調査によると、長野県では、電子、電気、情報を合わせた電気3種の輸出入出荷額が全体の41.4%を占め、次いで生産用機械器具が33.2%、輸送用機械器具が6.2%などとなっているが、食品など「他の業種」の輸出入出荷額も、平成元年に全体の輸出入出荷額の6.0%を占めるに過ぎなかったものが、平成29年には10.8%を占めるまでになっている。今回は長野県の生産額が全国の49.0%（経済産業省「工業統計」2018年）を占める「みそ」の輸出を見てみる。

平成29年の同調査によると、長野県の「みそ」の輸出入出荷額は146,577万円で、食料全体（飲料除く）の輸出入出荷額の44%を占める。

長野県の食糧の輸出入出荷額
（みそ・みそ以外の食糧・平成29年）

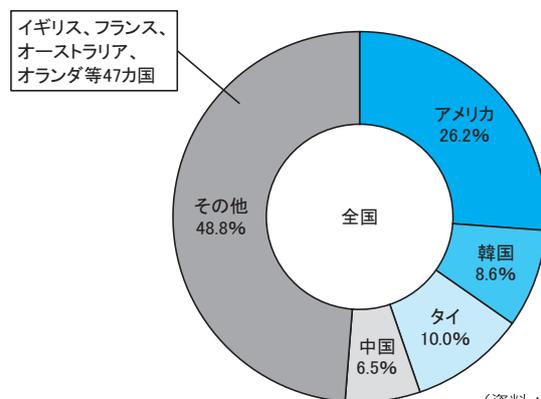
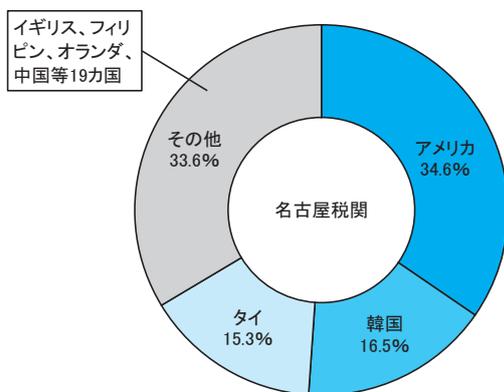


7. 貿易統計に見る「みそ」の輸出相手国

ご案内の通り、政府が平成19年に策定した「わが国農林水産物・食品の総合的な輸出戦略」において、「みそ」も加工食品輸出の重点個別品目となっている。こうした中、財務省の貿易統計によれば、「みそ」の輸出は、2013年に日本食がユネスコ無形文化遺産に登録されたことや、世界的な健康ブームもあり、増加傾向にある。また、同統計によれば、長野県や愛知県など「みそ」生産で名高い地域を管轄する名古屋税関が、輸出数量・輸出金額とも全国シェアトップとなっている。

下記グラフは、同統計によって「みそ」の輸出相手国を見たものだが、全国、名古屋税関管内ともにアメリカがトップとなっている。アメリカでは和食レストランや日系スーパーがチェーン展開をしていることの影響が大きいという。次いで、古くから在留邦人が多く「みそ」に馴染みのあるといわれる韓国、現地に加工工場があるタイなどが続く。2019年上半期において、名古屋税関管内では中国向け輸出が少ないが、これは東日本大震災に伴う諸外国、地域の輸出規制措置により、中国が長野県を含む9都県のすべての食品、飼料輸入を停止していることの影響が考えられるという。

「みそ」輸出相手国（2019年上半期）



（資料：名古屋税関）

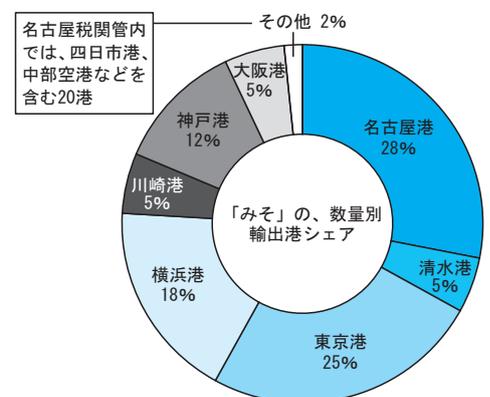
8. 「みそ」の輸出港

「みそ」は長期保存が可能のため、海港からコンテナ輸送により輸出されることが多いが、港別に2019年の輸出数量を見ると、名古屋港のシェアが高い。

2018年まで東京港の輸出数量が最も多かったものが、2019年に名古屋港の輸出数量が最も多くなったのだが、これには輸送コストの面から長野県の輸出が名古屋港に集約された等の事情があるという。

目下のところ三河港は「みそ」の輸出に利用されていないようだが、三遠南信自動車道の開通があったとき、それがどのように変化するか注目される。

（※ 図表出所は、特に表記のない限り長野県輸出生産実態調査結果報告書）



（資料：名古屋税関）

（飯田信用金庫 しんきん南信州地域研究所 中村 達）